

学会発表

(*は財団研究員；**は客員研究員)

第19回日本応用老年学会大会(2024/11/9-10: 神奈川)

- ①上原桃美*, 中村正人**「特別養護老人ホーム職員の防災意識の実態」

【発表要旨】防災意識尺度を用い、特養職員の防災意識の程度を示した。特養職員の防災意識は行政職員よりも高いほどの高水準であり、特養での防災に関する取り組みの成果である可能性が示唆されたが、これに関しては今後の検証が必要である。

- ②佐々木晶世*, 土屋瑠見子*, 石橋智昭*「高齢者施設における看取り対応へ向けての意向確認の現状と利用者の背景：インターライ方式によるアセスメントデータより」

【発表要旨】特別養護老人ホームやグループホームと比べて介護老人保健施設の利用者の方が「もしものとき」の医療行為に関する事前指示ありの利用者が少なかったのは、在宅復帰を目的とした施設特性の可能性がある。

- ③石橋智昭*, 上野芳江「シルバー人材センター会員における通勤時の事故：都内58センターの2022年度データより」

【発表要旨】都内の通勤時事故は全国平均よりも多く、その大半は単独事故が占め、男性では自転車の操作ミス、女性では歩行時のつまづきが主要原因であり、受傷時の骨折リスクは男性よりも女性が約2倍高かった。

- ④土屋瑠見子*, 松岡洋子, 西田和正, 花里真道, 近藤克則「地域在住高齢者における住宅の居住階数と外出頻度：JAGES2019 横断研究」

【発表要旨】地域在住高齢者における住宅の居住階数と外出頻度との関連を検討した結果、エレベーターのある集合住宅中層階居住者では外出頻度が高い者が多いことがわかった。外出支援策では居住階も考慮する必要性が示唆された。

- ⑤安順姫*, 新野直明**, 芳賀博**「地域高齢者を対象とした在宅型の心の健康増進プログラムの試み」

【発表要旨】在宅型の心の健康増進プログラムの継続群

では、Well-beingへのポジティブな影響が見られた。一方で、うつ状態の人を含む脱落群も一定程度存在し、通所型よりも手厚いサポートが求められることが明らかとなった。

- ⑥石橋智明*. 公開シンポジウム『ジェロントロジーを学ぶ価値』の座長を担当

第33回日本健康医学会総会(2024/11/9: 東京)

- 佐々木晶世*「高齢者施設における事前指示と利用者の背景との関連」

【発表要旨】高齢者施設利用者に「もしものとき」の医療行為に関する事前指示があることは、年齢、日常生活動作、認知機能、うつ、家族との関わりなど利用者の背景が影響することが示唆された。

第44回日本看護科学学会(2024/12/8: 熊本)

- 佐々木晶世*, 廣岡佳代**, 五十嵐歩**, 二宮彩子**, 金田明子**「高齢者施設における看取りケアに向けたACPと看護職の役割」

【発表要旨】インターライ方式によるアセスメントデータを用いたこれまでの研究の成果を紹介するとともに、新たな書籍(看取りケア版)を高齢者施設や在宅での看取りで活用するための方策について意見交換を行った。

講演など

石橋智昭:

- ①新潟県シルバー人材センター連合会役員研修会において「シルバー人材センター事業に役立つ老年学のススメ」を講演(10/24、オンライン)
- ②東邦大学看護学部「健康政策論」の講義を担当(10/2~11/20、計7回)
- ③東邦大学大学院看護学研究科「健康政策特論」の講義を担当(12/10~1/20、計5回)
- ④全国シルバー人材センター事業協会「経営力向上研修」の講義を担当(12/17)

佐々木晶世:

- ①横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻「老年看護学特講II」の講義を担当(11/18)

